

就職活動で学生優位の「売り手市場」が続き、複数の企業から内定を得る学生も多い中、岡山市内の企業が内定者のつなぎ留めに力を入れている。学生の入社の判断に影響を与える保護者に

企業 岡山市内

アプローチしたり、定期的な交流で接点を増やしたりと、内定辞退の防止に知恵を絞る。配属先を入社前に発表して学生の不安解消を図る企業もある。

(高橋由大、鈴木省吾、須藤里恵)

内定辞退防止に力

銘建工業が内々定者を対象に開いた企業見学会＝7月



平林金属が昨年12月に開いたレクリエーション。内定者らが交流を深め、辞退者ゼロにつながった



7月、集成材大手の銘建工業(真庭市勝山)の工場に、内々定を受けた企業見学会。国内トップシェアを誇るCLT(直交集成板)

保護者へアプローチ

学生と定期的な交流

入社前に配属先発表

の製造現場や、端材を活用するバイオマス発電施設などを視察した。

「人材獲得競争が過熱する中、保護者にもわが社への理解を深めてもらうことで、内定辞退のリスクを減らしたい」と同社。

中山間地での勤務に対する保護者の不安も取り除くため、見学会では地域の町並みなども見て回った。

自動車販売などのダブルツリー(倉敷市加須山)も5月から、内定者と保護者を交えた「親子面談」を行っている。林和樹社長が自ら業務内容を説明したり心配事を聞いたりしており、同社は「学生にも保護者にも安心して入社してもらいたい」とする。

就職情報サイト「リクナビ」を運営するリクルート(東京)によると、1日時点の大学生の内定率は95・9%。1人当たりの内定取得企業数は2・52社に上る。人材確保のために内々定を出す時期も早まっており、企業側は入社までの長い期間、フォローする必要性が高まっている。

学生のつなぎ留め対策として、内定者との接点を増やすのはリサイクル業の平林金属(岡山市北区下中野)。採用担当者が7月から毎月、内定を出した学生11人と対面やウェブで交流しており、今後は工場や社員寮などの見学会を計画する。

学生との交流は昨年も行い、自社のソフトボールチームの応援ツアーや、学生同士の親睦を深めるレクリエーションなどを企画した。「仕事内容や職場の雰囲気に関する不安を一つ一つ解消してもらえた」と今春入社の前原成さん(23)。緊密な交流が奏功し、内定式後の辞退者はいなかったという。

入社前に配属先を伝え、不安の払拭に取り組む企業も。紳士服大手のはるやま商事(同表町)は来年1月、全国転勤を伴う総合職の内定者に赴任する地域や店舗ブランドを伝える予定だ。担当者は「入社後のイメージを持ちやすい上、内定者が地域やブランドを事前に調べて、モチベーションを高めるきっかけにもなるはず」と話している。